



コロナ禍で東京2020が開催される中 戦後76年目の夏をどのように迎えますか？



※写真はイメージです。
今年の写真ではありません

8月8日、日本が史上最多の58個のメダルを獲得した17日間のオリンピックが閉幕しました。開催までは賛否があったオリンピックでしたが、終わって見れば「やってよかった」との声も聞こえてきています。

一方、76年前の8月6日、広島に人類史上初となる原子爆弾(リトルボーイ)が投下され、その3日後の8月9日にも原子爆弾(ファットマン)が長崎に投下された歴史があります。広島と長崎では、毎年原爆が投下された日に平和祈念式典が開催されていますが、特に今年の長崎の平和祈念式典では、92歳の被爆者代表の方が「私たち被爆者は命ある限り語り継ぎ、核兵器廃絶と平和を訴え続けていくことを誓います」と力強く読み上げ、被爆国として核兵器禁止条約に不参加の日本政府に平和への誓いを強く訴えました。

国際オリンピック委員会のバッハ会長は、オリンピック開催前に広島を訪れていますが、平和の祭典といわれるオリンピック期間に節目の日があるのにも関わらず、黙祷などが行われなかったことを見れば広島訪問は単なるアピールで、慰霊の想いは無かったのではないかと思われても仕方ありません。

本日、終戦記念日(8月15日)を迎えましたが、一人ひとりの行動の積み上げでしか現実を変えることはできません。今一度、戦争とは何なのかを考えてみませんか？そして、私たちのいる日本社会どのようにしたら良いのか？ポストコロナをどのように迎えるべきなのか？何より、どのようにしたら労働条件が維持・向上するのか考えて行動してみてもいいでしょうか？

**職場からも「これ変だな？どうにかならないか？」との声も頂きます！
一人ひとりの考えと行動を、東労組で意見を述べていこう！**